

## イネの土壌水分変動条件に対する適応性における根が具備すべき形質の同定

ケニア マセノ大学理学部長  
ジョン・C・オニャンゴ教授  
客員教授（2006年8月1日～12月28日）

私達はケニアの農業生態系に適したネリカ米（NERICA: New Rice for Africa）品種を選抜・普及し、米の増産を実現したいと考えています。私はアフリカ人造り拠点プロジェクト（AICAD: African Institute for Capacity Development）と国際協力機構（JICA: Japan International Cooperation Agency）の支援により、特にケニアの稲作農家のため、ネリカ米の生産性と乾燥抵抗性に関する研究に従事してきました。



私の農学国際教育協力研究センター（ICCAE）滞在は、土壌水分欠乏がネリカ品種の乾物生産と収量に及ぼす影響に関する研究を進めるにあたって有益なものとなりました。研究成果はサハラ以南アフリカへのネリカ品種の普及ならびに最小の投入で最大の収量をあげるための農業技術の開発普及に活用され、食糧不足の解消および貧困削減に資するものと期待されます。

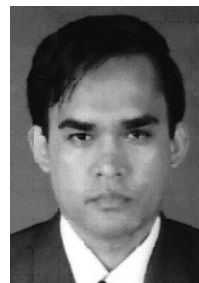
私はICCAEにおいて多くのことを経験することができました。ICCAEおよび大学院生命農学研究科の山内章教授の研究室の友好的なスタッフと共に研究できたことを光栄に思います。また、滞在中に松田生命農学研究科長にお会いし、生命農学研究科とマセノ大学理学部との学術交流の可能性について話し合う機会を持ちえたことは大変名誉なことでした。私をICCAEに招聘し、滞在を快適なものにしてくれた皆様に感謝いたします。

**略歴** 1958年ケニア共和国ボンダ生れ。1986年ナイロビ大学助講師就任。1989年英国サセックス大学で博士号取得。1991年マセノ大学に移り植物学科を創設。2001年植物生理学教授に昇進。1991年～2001年植物学科長。1993年～2000年、マセノ大学の世界銀行渉外担当責任者（Ke 2509）。1990年～現在、ドイツ、バイロイト大学およびボン大学と共同研究。1995年、英国、ロンドン大学ワイカレッジと共同研究。1998年、米国、ルイジアナ州立大学クローリー、ライス・リサーチ・センターと共同研究。2004年～現在、ケニア、AICAD-JICAプロジェクトによるネリカ米振興事業参加。2004年6月マセノ大学理学部長就任。

## カンボジア王立農業大学における獣医学のカリキュラム開発と研究開発

カンボジア 王立農業大学 農業研究普及部長  
メアス・ソティー博士  
客員研究員（2007年4月23日～7月22日）

私はカンボジア王立農業大学（RUA）で1993年から講師を務め、2006年から同大学農業研究・普及部長を務めています。同大学畜産獣医学科では、家畜微生物学と家畜感染症について講義を行っています。私は、鳥インフルエンザのように現在世界中で流行している感染症の防除に関する研究のみならず、農学や林学、畜産学、水産学などに関する様々な農学研究に従事しています。これらの研究活動を強化するために、カンボジアは外国からの援助や連携協力を必要としています。



近年、カンボジアは世界貿易機関（WTO: World Trade Organization）に加入しました。その結果、(1) 畜産品、(2) 食品安全性、(3) 公衆衛生（人獣共通感染症: 脾脱疽、結核病など）、(4) 感染症対策（口蹄疫、パストツレラ症、気腫疽、鳥インフルエンザなど）、(5) 動物保護（カンボジアの家畜や野生動物に対する）の管理強化が求められ、獣医による適切な管理体制構築の必要性が高まっています。しかし、カンボジアには獣医学のカリキュラムがまだありません。

私のICCAE滞在はRUA獣医学のカリキュラム開発と研究活動の促進にとって有益です。私たちは日本の大学と研究者からのサポートと助言を必要としています。私のICCAEにおける活動はカンボジアの獣医学教育のための国家的プログラムにおける新しい歴史となることが期待されています。関係するすべての日本の皆様に感謝いたします。

**略歴** 1966年カンボジア生れ。カンボジアの平和期（～1970年）、親米内戦期（クメール共和国: 1970～1975）、虐殺期（ボル・ボト時代: 1975～1978）、内戦期（1979～1993）の4つの異なる政治体制を経験。ボル・ボト政権下では3年間学校が閉鎖され、他のカンボジア人と同様、水田での強制労働を経験した。1992年カンボジア王立農業大学（RUA）卒業（家畜衛生生産学）。1993年カンボジア日本大使館の文部省奨学生選抜試験合格。1995年北海道大学研究生。1996年同大学大学院博士課程に入学し、2000年獣医学博士号を取得。2001年～2003年まで日本学術振興会外国人特別研究員として同大学大学院獣医学研究科家畜感染症学教室で研究後RUAに帰任。